

2017年3月卒業予定者の

就職活動に関する 学生調査

2016年
9月1日状況

74.2%の学生が
「活動終了」


入社予定企業からの内定、30.6%は
6月の選考解禁前に獲得済み




アイデム 人と仕事研究所

WEBサイトでは、採用活動の
ヒントとなる情報を発信して
います

<https://apj.aidem.co.jp/>

人と仕事 

 「就職活動に関する学生調査」
「新卒採用に関する企業調査」
学生と企業の「今」がわかります

株式会社アイデム
〒160-0022 東京都新宿区新宿1-4-10
アイデム本社ビル

お問い合わせ
▶ 広報担当 / 望月・栗木 ▶ 調査担当 / 岸川・古橋・菊地
☎ 03-5269-8780 ✉ kouhousitu@aidem.co.jp

結 果 概 要

2017 就職活動に関する学生調査
(2016年9月1日状況)

進捗状況

▶現在のステータス

【主な活動】

「面接・試験段階」…………… 9.0%
「内定獲得／就活継続段階」…………… 11.7%
「内定獲得／就活終了段階」…………… 74.2%
(前月比+8.5ポイント)

【各活動ステータスに到達した学生の割合】

「内定獲得段階(内定獲得率)」…………… 86.3%
(前月比+6.0ポイント)

▶内定獲得社数

平均2.3社 (前月比±0社)
内定獲得者の60.8%が“2社以上”の内定を獲得

▶1日の活動時間

「就職活動に費やす時間」は0.8時間
前回調査(8月1日時点:1.1時間)から0.3時間の減少で
調査開始以来最低
「学業に費やす時間」は3.4時間で、
前回調査(8月1日時点:3.7時間)から0.3時間の減少

▶現在選考中の企業数

「2社」…………… 28.4% 「0社」…………… 24.1%
平均2.4社 前回調査(8月1日時点:2.3社)から
0.1社の増加

今後の就職活動予定

▶企業への新たな応募予定がある学生

70.8% 前回調査(8月1日時点:66.5%)から増加

▶今まで興味がなかった“業界”や“職種”への応募を 考えている学生

【業界】50.4% 【職種】43.8%
8月1日時点から減少

内定企業・入社予定企業について

▶内定辞退の状況

「入社予定企業の内定のみを残し、他はすべて辞退した」
…………… 87.4%
前回調査(8月1日時点:82.1%)から5.3ポイント増加

▶入社予定企業の業界

「メーカー」…………… 29.7% 「ソフトウェア・通信」12.7%
「金融・証券・保険」12.6%

▶入社予定企業のエントリー・応募に至った最初のきっかけ
「就職ナビサイト」…………… 28.4%
「合同企業説明会」…………… 12.2%
「企業の採用ホームページ」…………… 11.6%
「大学の学内企業説明会」…………… 10.7%

▶入社予定企業のエントリー・応募に至った
最初のきっかけがあった時期
「2016年3月頃」…28.3% 「2015年12月以前」19.2%
「2016年4月頃」…15.4%
広報活動解禁の3月より前にきっかけがあった学生は35.4%

▶入社予定企業から内定を獲得した時期
「6月頃」…………… 39.2% 「5月頃」…………… 19.7%
「7月頃」…………… 17.1%
選考活動解禁の6月より前に内定を獲得した学生は30.6%

▶就職活動を終了した時期
「6月頃」…………… 41.7% 「7月頃」…………… 23.3%
「8月以降」…………… 19.2%

▶入社予定企業に対する満足度
「満足」「どちらかと言えば満足」が合わせて88.1%

インターンシップ

▶参加状況
「夏期」に参加…………… 37.3%
プログラム日数は「4~5日」が24.5%で最多
「秋期・冬期」に参加…………… 45.9%
プログラム日数は「1日」が48.8%で最多
プログラム内容は「実施企業の業界説明」「実施企業の
会社概要」「実施企業や業界に関するグループワーク・
ディスカッション」

▶参加企業への応募状況
参加企業の新卒採用選考に「応募した」学生の割合
「夏期」…………… 46.4% 「秋期・冬期」…………… 77.3%

▶参加企業からの内定獲得状況
参加企業の新卒採用選考に応募後
「内定を獲得した」学生の割合
「夏期」…………… 31.7% 「秋期・冬期」…………… 37.7%

●	調査概要	p. 4
1	就職活動の進捗状況	p. 5
2	内定獲得状況	p. 6
3	企業規模に対する志向	p. 7
4	1日の活動時間	p. 8
5	現在選考中の企業数	p. 9
6	志望業界・入社予定企業の業界	p.10
7	志望職種・入社予定企業の職種	p.11
8	企業への新たな応募予定(9月)	p.12
9	入社予定企業の従業員規模	p.13
10	内定辞退の状況	p.14
11	入社予定企業のエントリー・応募に至ったきっかけ	p.15
12	入社予定企業から内定を獲得した時期	p.17
13	就職活動を終了した時期	p.18
14	入社予定企業に対する満足度	p.19
15	インターンシップ参加状況	p.20
16	インターンシップの日数・プログラム内容	p.21
17	インターンシップ参加企業への応募・内定状況	p.23

調査概要

調査目的

2016年9月1日時点における就職活動の準備・進捗状況等から、就職活動を行なう学生の実態を明らかにすること

調査対象

2017年3月卒業予定で、民間企業への就職を希望している大学4年生・大学院2年生の男女

調査方法

インターネット調査

調査期間

2016年9月1日～5日

有効回答

710名
「JOBASS 新卒」登録学生（380名）、株式会社クロス・マーケティングのアンケートモニター（330名）

※本調査は小数点以下第2位を四捨五入しているため、結果が100.0%にならない場合があります。
※「平均回答個数」とは、複数回答形式の設問において各回答者が回答した選択肢の個数の平均を示しています。

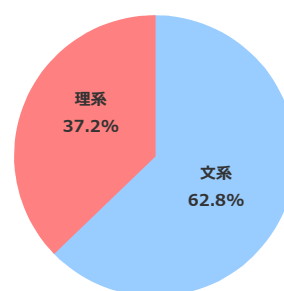
居住地域	回答数	(%)
北海道・東北地方	32	4.5
関東地方	256	36.1
北陸・甲信越地方	19	2.7
東海地方	45	6.3
近畿地方	267	37.6
山陰地方	30	4.2
四国地方	7	1.0
九州地方	54	7.6
合計	710	100.0

専攻	回答数	(%)
文系	507	71.4
理系	203	28.6
合計	710	100.0

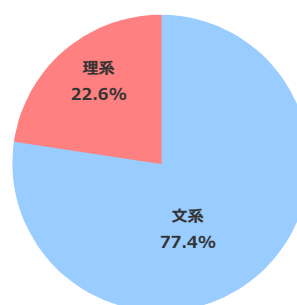
所属サークル	回答数	(%)
文化系	226	31.8
体育会系	162	22.8
イベント系	48	6.8
無所属	274	38.6
合計	710	100.0

性別	回答数	(%)
男性	290	40.8
女性	420	59.2
合計	710	100.0

男性



女性



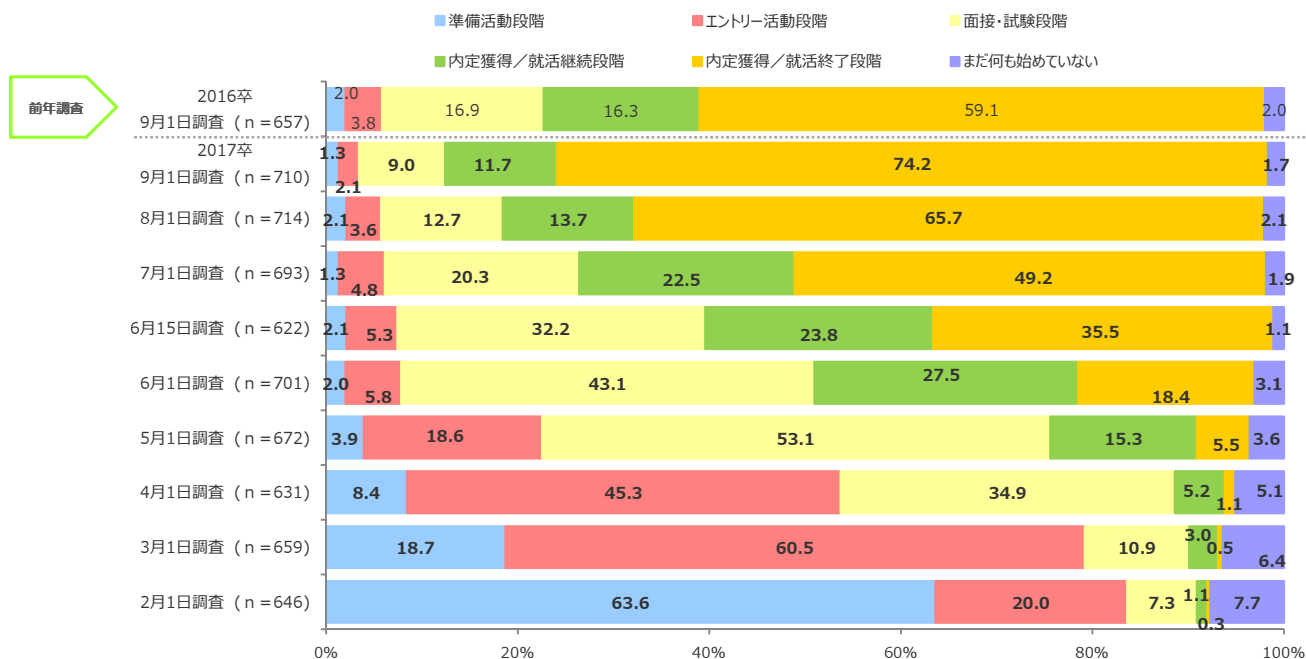
就職活動の進捗状況

学生に、2016年9月1日時点の就職活動において、“現在行なっている＜主な活動＞”を聞いた。74.2%が「内定獲得／就活終了段階」と回答しており、4分の3の学生が就職活動を終了させている。前年調査（「2016年3月卒業予定者の就職活動に関する学生調査 2015年9月1日状況」／以下同）と比較すると、大幅に早い進捗である。就職活動を継続している学生については、「内定獲得／就活継続段階」が11.7%、「面接・試験段階」が9.0%となっており、2017卒の就職活動も最終局面を迎えている（図1.1）。

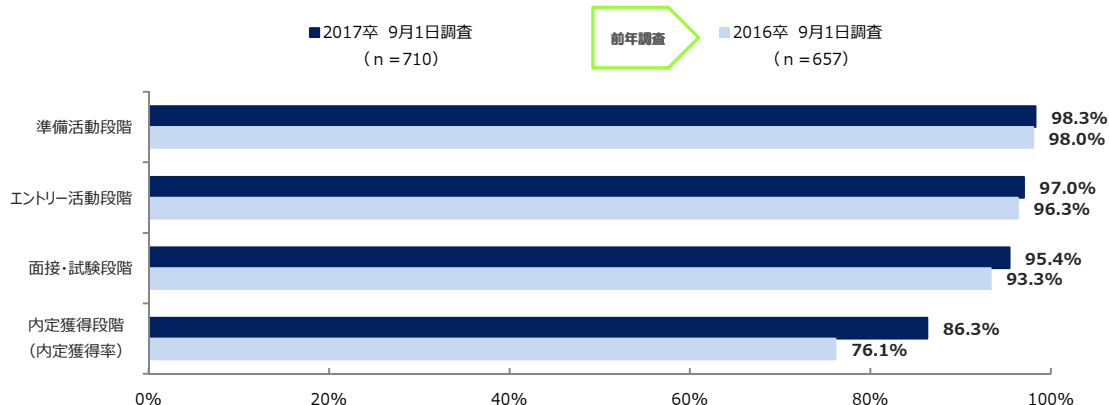
また、どのくらいの学生が就職活動の各活動ステータスに到達しているかを見た。9月1日時点では、「準備活動段階」98.3%、「エントリー活動段階」97.0%、「面接・試験段階」95.4%となっている。「内定獲得段階（“内定獲得／就活継続段階”と“内定獲得／就活終了段階”の計。以下“内定獲得率”）」は86.3%となり、前年調査の76.1%から10ポイント以上高くなっている（図1.2）。

- ◆準備活動段階
就職活動の情報収集や就活ナビサイトへの登録、自己分析や業界研究など企業にエントリーする前の準備を始めた段階
- ◆エントリー活動段階
説明会やエントリーシートの作成・提出など、企業にエントリー・応募し始めた段階
- ◆面接・試験段階
面接や試験など、主に企業の選考を受けている段階
- ◆内定獲得／就活継続段階
1社以上の内定を獲得したが、就活を継続している段階
- ◆内定獲得／就活終了段階
1社以上の内定を獲得し、就活を終了した段階

【図1.1】現在の就職活動のステータス：＜主な活動＞



【図1.2】各活動ステータスに到達した学生の割合



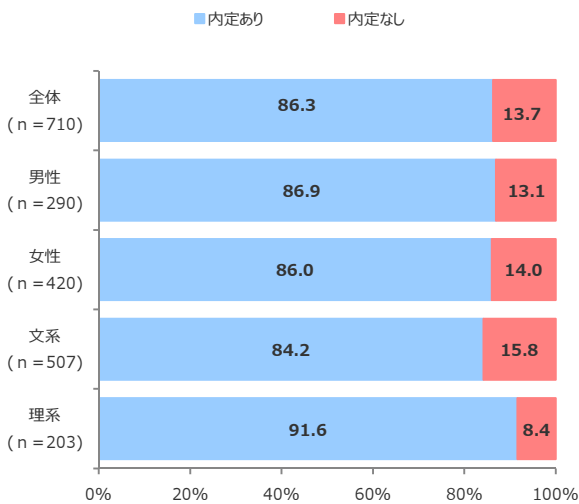
内定獲得状況

「図1.2 各活動ステータスに到達した学生の割合」から、学生の内定獲得状況の詳細を見た。全体では、「内定あり」86.3%、「内定なし」13.7%となった。男女別では大きな差はないが、文理別では理系の方が「内定あり」の学生の割合が高い(図2.1)。

内定を獲得した学生に、獲得社数を聞くと、平均は2.3社だった。「1社」39.2%、「2社」28.2%、「3社以上」32.6%となっている。属性別に見ると、男女別では大きな差はなく、文理別では文系が、入社予定企業の従業員規模別では規模の大きい企業に入社予定の学生の方が、内定獲得社数が多いようだ(表2)。

内定獲得率の推移を見ると、8月1日調査から6.0ポイントの増加となった。また、内定獲得者に占める複数内定獲得者の割合(以下、内定獲得者における複数内定獲得率)は、60.8%に達している(図2.2)。

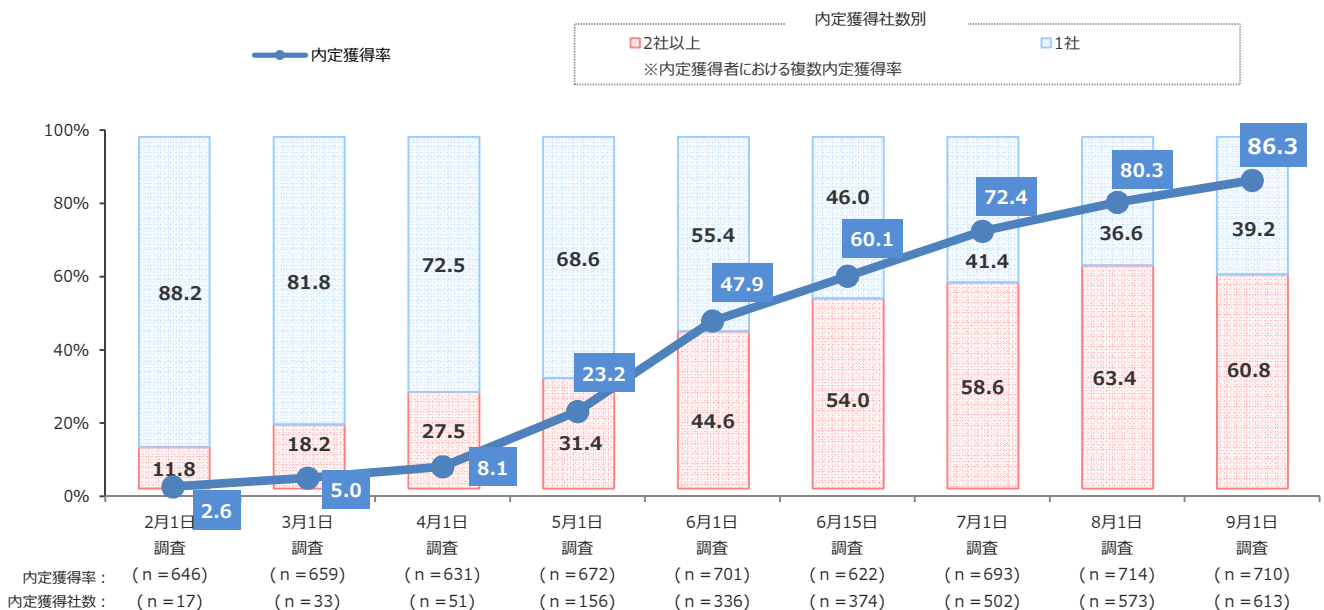
【図2.1】内定獲得状況：属性別



【表2】内定獲得社数：属性別

		1社 (%)	2社 (%)	3社以上 (%)	平均 (社)
2017卒 9月1日調査 全体 (n=613)		39.2	28.2	32.6	2.3
2016卒 9月1日調査 全体 (n=500)		38.0	27.4	34.6	2.3
男女別	男性 (n=252)	39.7	22.6	37.7	2.4
	女性 (n=361)	38.8	32.1	29.1	2.3
文理別	文系 (n=427)	36.5	28.3	35.1	2.4
	理系 (n=186)	45.2	28.0	26.9	2.1
従業員規模別	299人以下 (n=168)	41.1	31.0	28.0	2.1
	300~999人 (n=142)	45.1	30.3	24.6	2.0
	1,000~2,999人 (n=106)	32.1	32.1	35.8	2.5
	3,000人以上 (n=156)	34.6	21.8	43.6	2.8

【図2.2】内定獲得状況：時系列



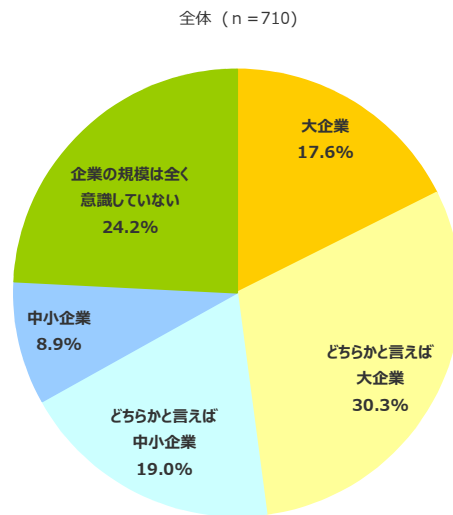
企業規模に対する志向

学生に、就職活動を行なうにあたり、大企業と中小企業のどちらを志望する気持ちが強いかを聞いた。9月1日時点では、「大企業志向」（「大企業」と「どちらかと言えば大企業」の計／以下同）が47.9%に上った。「中小企業志向」（「中小企業」と「どちらかと言えば中小企業」の計／以下同）の学生は27.9%、「企業の規模は全く意識していない」学生は24.2%となった（図3.1）。

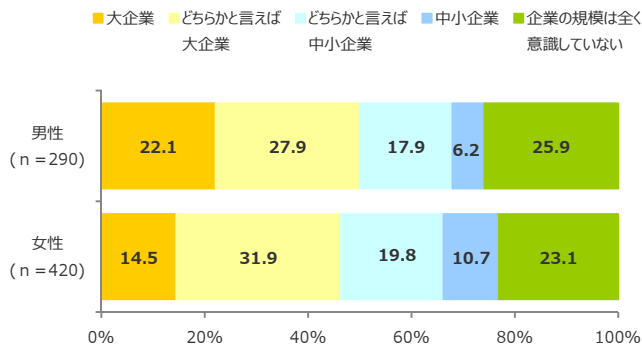
男女別で見ると、大企業志向の学生の割合は、男性50.0%、女性46.4%となり、男性の方が「大企業」と回答した学生の割合が高くなっている（図3.2）。

文理別で見ると、大企業志向の学生の割合は、文系で47.6%、理系で48.7%となり、大きな差はなかった（図3.3）。

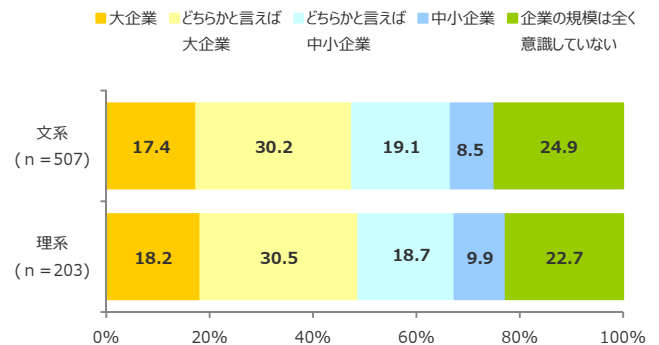
【図3.1】 企業規模に対する志向



【図3.2】 企業規模に対する志向：男女別



【図3.3】 企業規模に対する志向：文理別



1日の活動時間

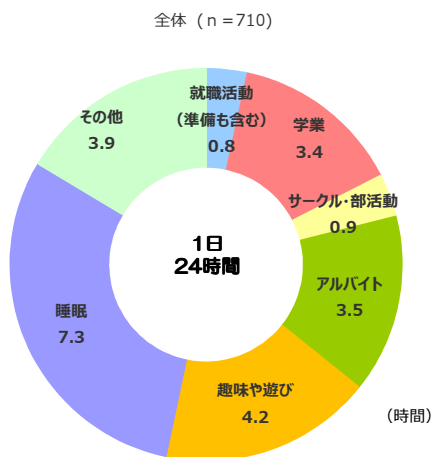
学生に、9月1日時点で、1日のうち「就職活動」「学業」「サークル・部活動」「アルバイト」「趣味や遊び」「睡眠」にどのくらいの時間を費やしているかを聞き、平均化した。結果は、「就職活動」0.8時間、「学業」3.4時間、「サークル・部活動」0.9時間、「アルバイト」3.5時間、「趣味や遊び」4.2時間、「睡眠」7.3時間となった(図4.1)。

属性別に見ると、文理別では、「学業」に費やす時間は、理系が6.3時間、文系が2.2時間と理系の方が大幅に多く、理系学生は、卒業に向けた研究・論文が本格化していることがうかがえる。内定獲得状況別では、「内定なし」の学生の「就職活動」に費やす時間は2.8時間となり、「内定あり」の学生の5倍以上となった。「就職活動」「学業」「アルバイト」以外の時間の使い方は、内定の有無で大きな差はなく、「内定なし」の学生は、主に「学業」や「アルバイト」の時間をやりくりし、就職活動時間を捻出しているようだ(図4.2)。

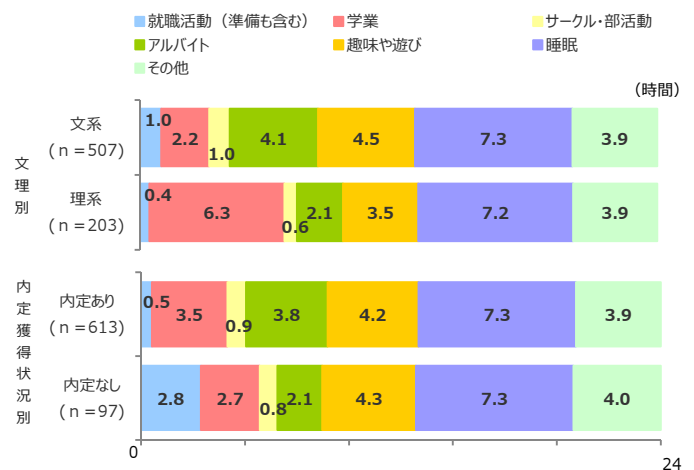
時系列で見ると、「就職活動」に費やす時間は8月1日調査から0.3時間減少し、2月の調査開始以来最低の数値となった。「趣味や遊び」「アルバイト」の時間も、調査開始から最も多くなっており、就職活動からの解放感がうかがえる結果となった。また、「就職活動」に費やす時間は時期によって変動しているのに対し、「睡眠」時間は2月から一貫して7時間程度確保されているようだ。

さらに、前年調査と比較すると、就職活動時間は3分の1以下になっており、終了時期が早くなっていることが改めて感じられる(図4.3)。

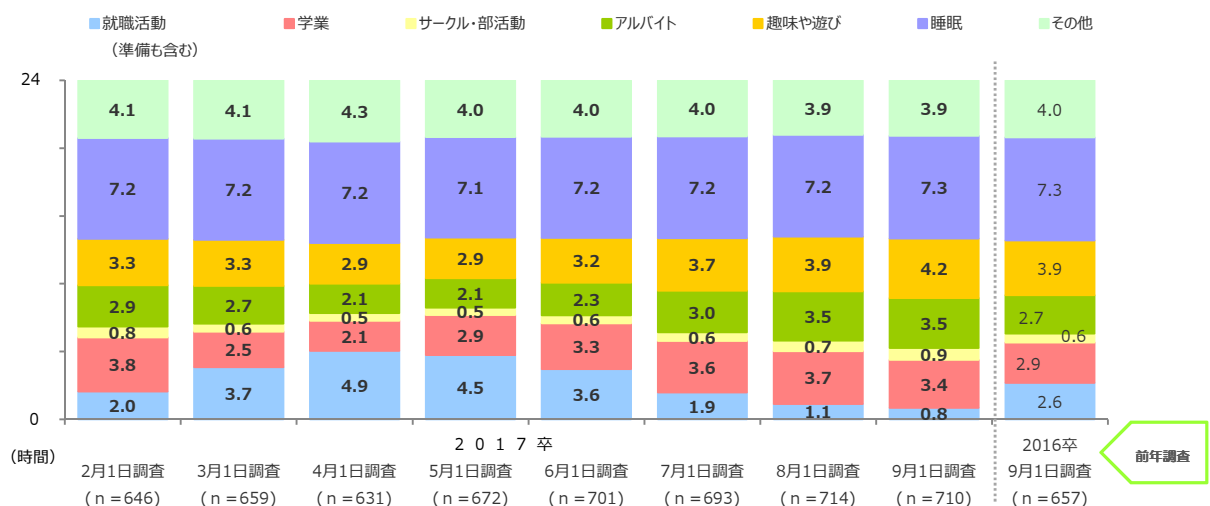
【図4.1】1日の活動時間／平均



【図4.2】1日の活動時間／平均：属性別



【図4.3】1日の活動時間の推移／平均



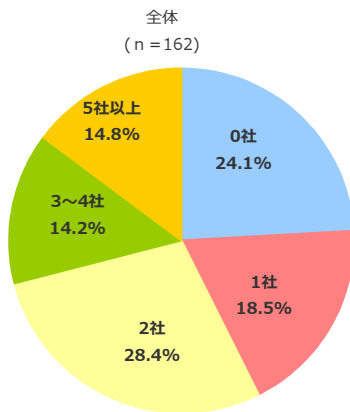
現在選考中の企業数

「1 就職活動の進捗状況」において、就職活動が「エントリー活動段階」以降に進んでおり、かつ活動を継続している学生に対し、9月1日時点で「選考中」（応募はしているが、選考途中で最終的な結果が出ていない状態）の企業数を聞いた。最も多かった回答は「2社」で28.4%、次点は「0社」で24.1%となっている（図5.1）。

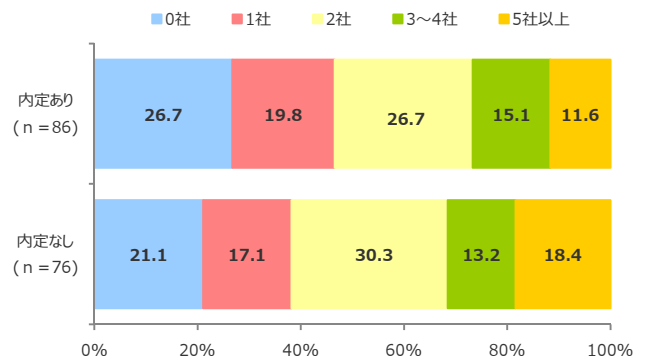
内定獲得状況別に見ると、「0社」と回答した学生の割合は、「内定あり」の学生では26.7%、「内定なし」の学生では21.1%となった。「内定なし」の学生でも、9月1日時点で選考中の企業がまったくない学生も一定数おり、就職活動終了にはまだ時間がかかりそうだ（図5.2）。

平均社数は2.4社で、前回調査からほぼ横ばいとなった。推移を見ると、6月1日調査（「2017年3月卒業予定者の就職活動に関する学生調査 2016年6月1日状況」）から減少傾向にある。就職活動を継続しているとは言え、リストアップしている企業数が少なくなってきたのか、前回調査に引き続き、就職活動の終了ムードが感じられる結果となった（図5.3）。

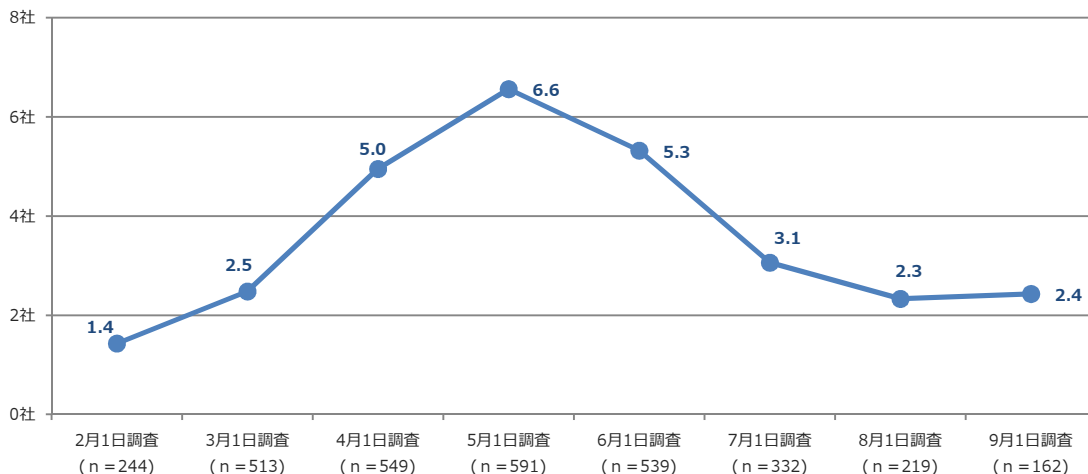
【図5.1】現在選考中の企業数



【図5.2】現在選考中の企業数：内定獲得状況別



【図5.3】現在選考中の企業数の推移／平均

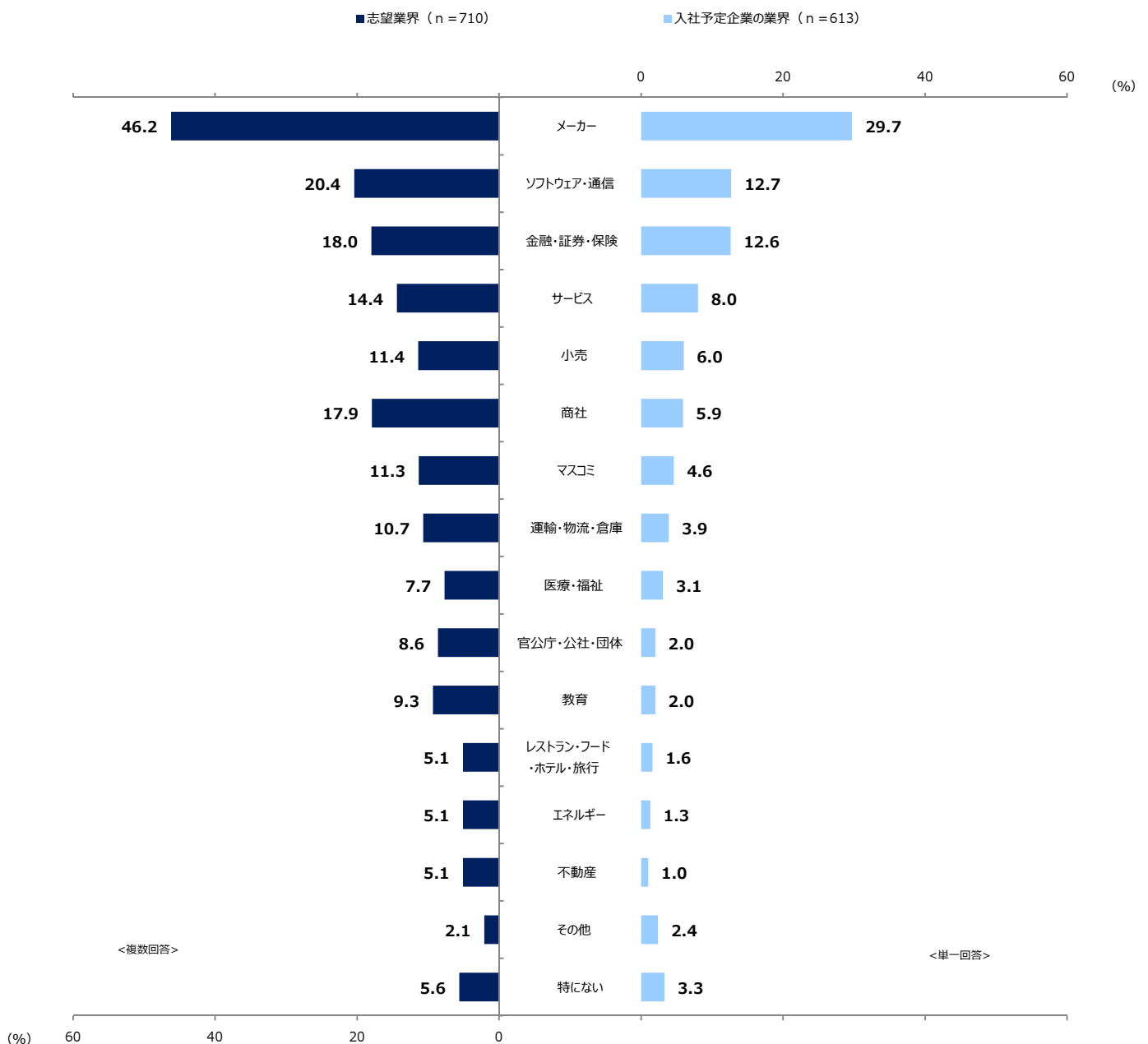


志望業界・ 入社予定企業の業界

学生に、9月1日時点の志望業界について聞くと、「メーカー」が突出して多く、46.2%となった。次いで、「ソフトウェア・通信」20.4%、「金融・証券・保険」18.0%、「商社」17.9%となった。

また、「2 内定獲得状況」において、9月1日時点で内定を獲得している学生に、入社予定企業の業界を聞いた。結果は、「メーカー」29.7%、「ソフトウェア・通信」12.7%、「金融・証券・保険」12.6%の順となっている（図6）。

【図6】 志望している業界はどこか／入社予定企業の業界はどこか

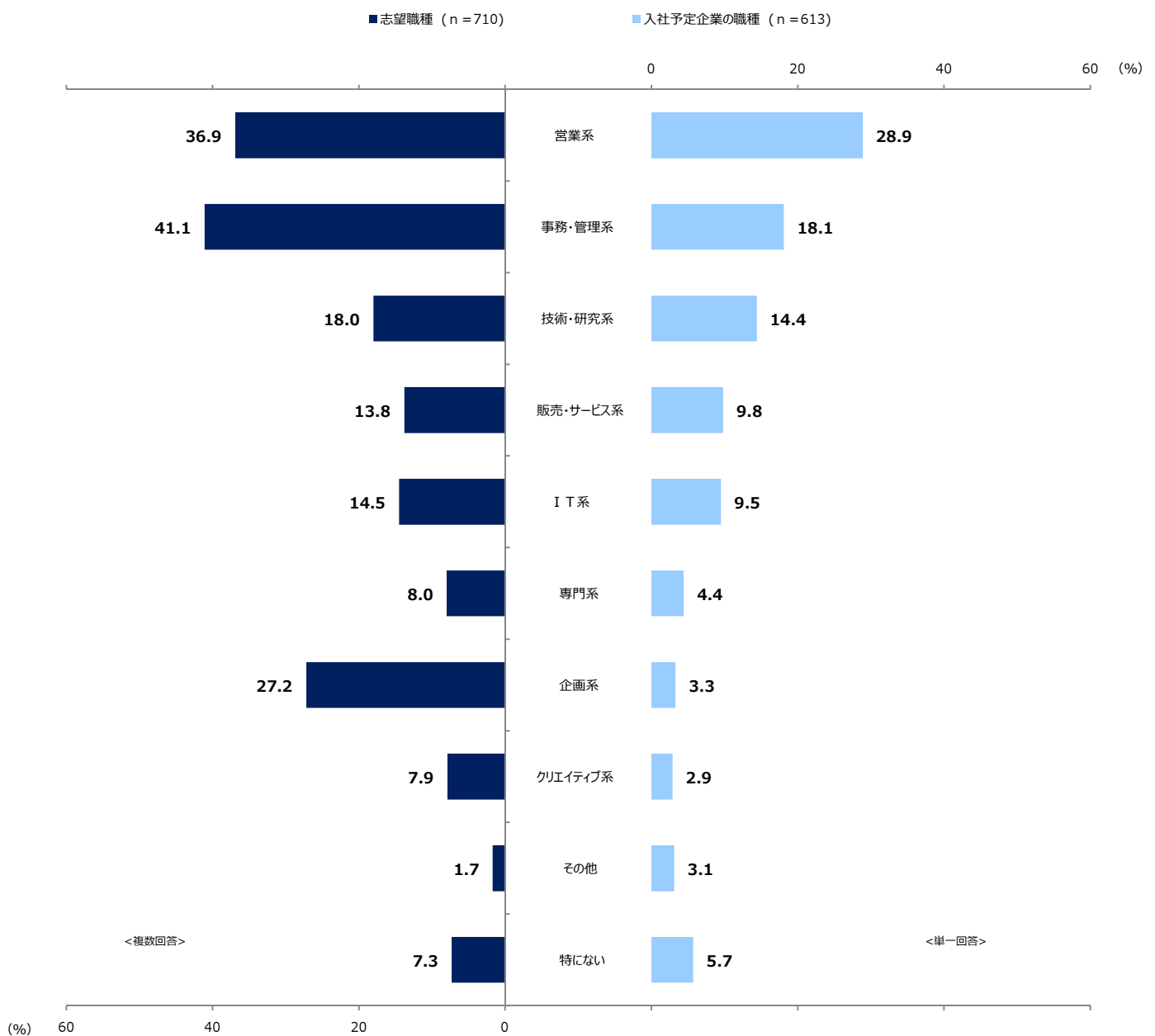


志望職種・ 入社予定企業の職種

学生に、9月1日時点の志望職種について聞くと、「事務・管理系」が41.1%と最も多く、続いて「営業系」36.9%、「企画系」27.2%、「技術・研究系」18.0%の順となった。

また、「2 内定獲得状況」において、9月1日時点で内定を獲得している学生に、入社予定企業で従事する職種を聞いた。結果は、「営業系」28.9%、「事務・管理系」18.1%、「技術・研究系」14.4%となっている（図7）。

【図7】 志望している職種は何か／入社予定企業で従事する職種は何か

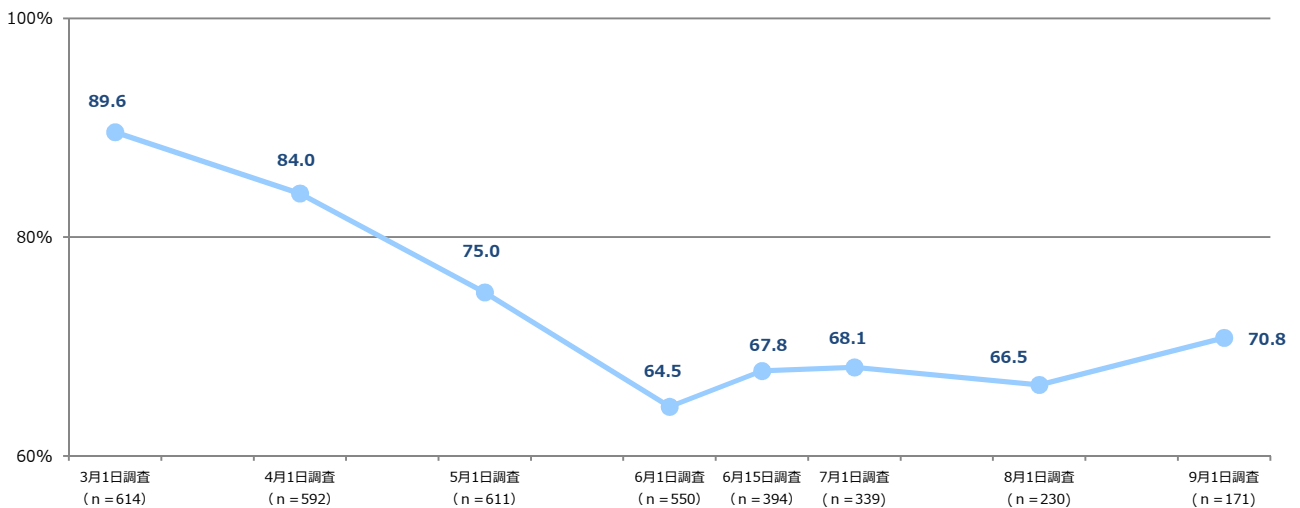


企業への新たな応募予定（9月）

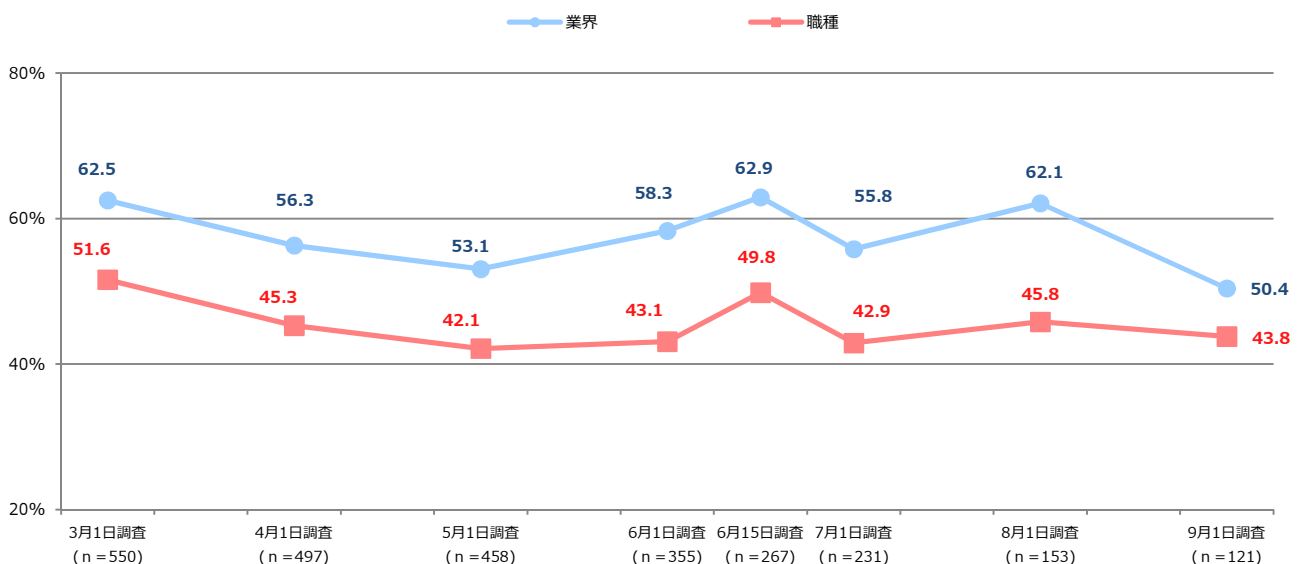
「1 就職活動の進捗状況」において、「内定獲得／就活終了段階」「まだ何も始めていない」以外の回答をした学生に対し、9月の就職活動において、新たに企業に応募する予定があるかを聞いた。「ある」と回答した学生の割合は、70.8%で、前回調査からやや増加した。内定を得られずに新たな応募先を開拓せざるを得ない学生や、満足はいく結果を求めて引き続き応募活動を続ける学生が一定数いることがうかがえる（図8.1）。

さらに、新たに応募する予定が「ある」と回答した学生に、今まで興味がなかった“業界”や、興味がなかった“職種”も応募しようと考えているかを聞いた。「（応募しよう）と考えている」と回答した学生の割合は、“業界”では50.4%、“職種”では43.8%となった。新たな企業に目を向ける際には、“職種”よりも、“業界”の視野を広げる学生の方が多い。また、今までとは異なる“業界”や“職種”に応募する意向の学生は、減少に転じている（図8.2）。

【図8.1】 今月、新たに企業に応募する予定がある学生の割合：時系列



【図8.2】 今まで興味がなかった“業界”や“職種”も応募しようと考えている学生の割合：時系列



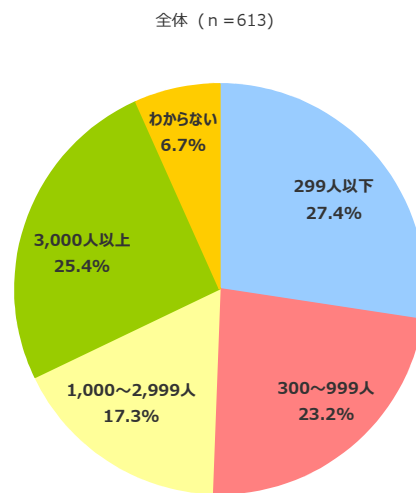
入社予定企業の従業員規模

「2 内定獲得状況」において、9月1日時点で内定を獲得している学生に、入社予定企業（複数内定獲得者は、現時点で最も入社志望度が高い企業）の従業員規模を聞いた。「299人以下」の企業に入社予定の学生が27.4%で最多となっている（図9.1）。

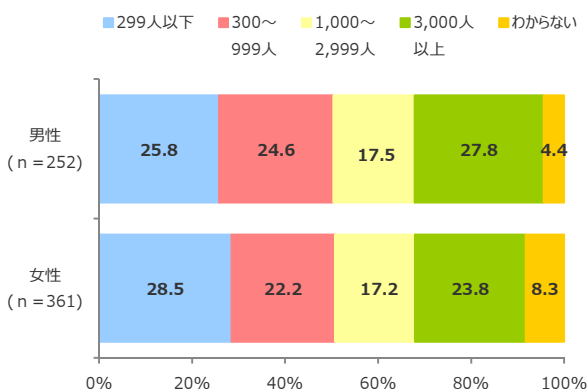
男女別に見ると、男女とも大きな傾向の差は見られなかった（図9.2）。

企業規模に対する志向別に見ると、「大企業志向」の学生の42.0%は「3,000人以上」の企業に入社予定である。反面、約3割の学生は「299人以下」もしくは「300~999人」の企業に入社予定であり、自身の志向と入社予定企業の規模が合致していない。一方、中小企業志向の学生の約8割は、「299人以下」もしくは「300~999人」の企業に入社予定である（図9.3）。

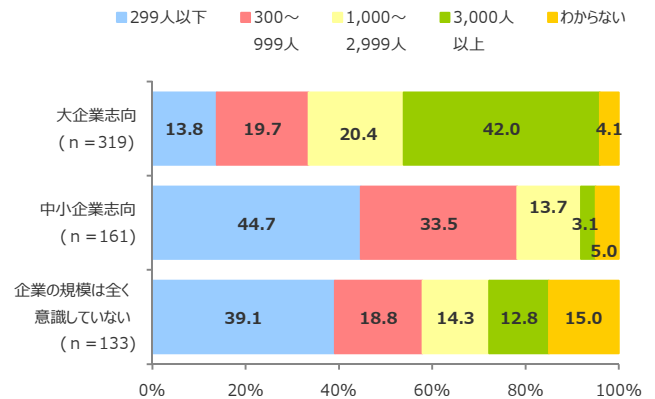
【図9.1】入社予定企業の従業員規模



【図9.2】入社予定企業の従業員規模：男女別



【図9.3】入社予定企業の従業員規模：企業規模に対する志向別



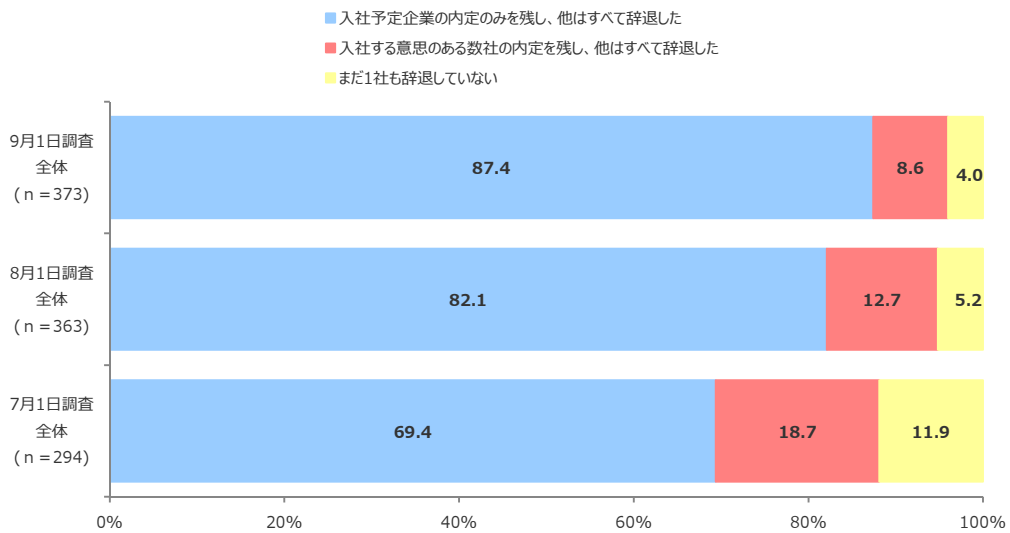
内定辞退の状況

「2 内定獲得状況」において、9月1日時点で2社以上の内定を獲得している学生に対し、内定辞退の状況を聞くと、87.4%の学生が「入社予定企業の内定のみを残し、他はすべて辞退した」と回答した。8月1日時点の82.1%から5.3ポイント増加しており、入社する“1社”を決めた学生は約9割に上る（図10.1）。

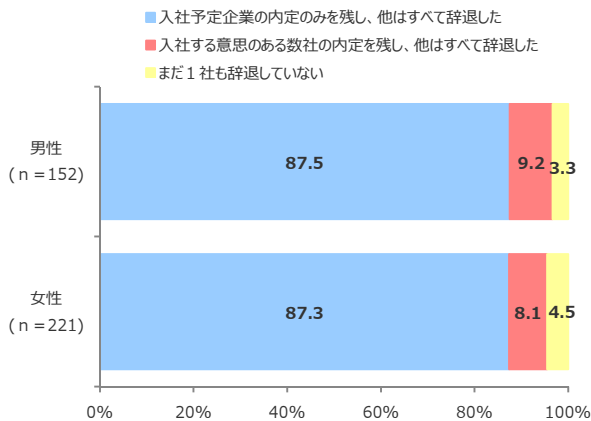
属性別で見ると、男女別では大きな差は見られなかった（図10.2）。

文理別では、理系は文系よりも「入社予定企業の内定のみを残し、他はすべて辞退した」の回答割合が高く、入社予定企業を早く決めていようだ（図10.3）。

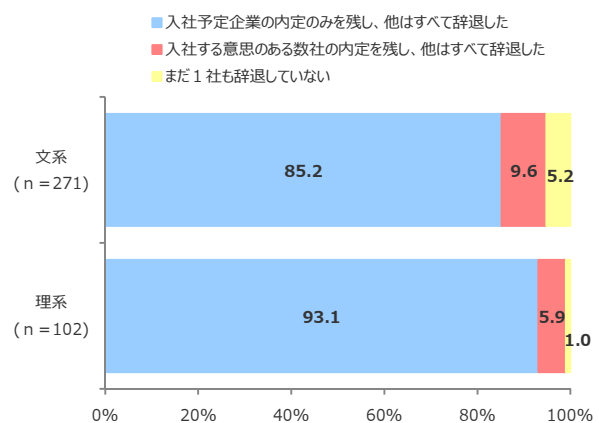
【図10.1】内定辞退の状況



【図10.2】内定辞退の状況：男女別



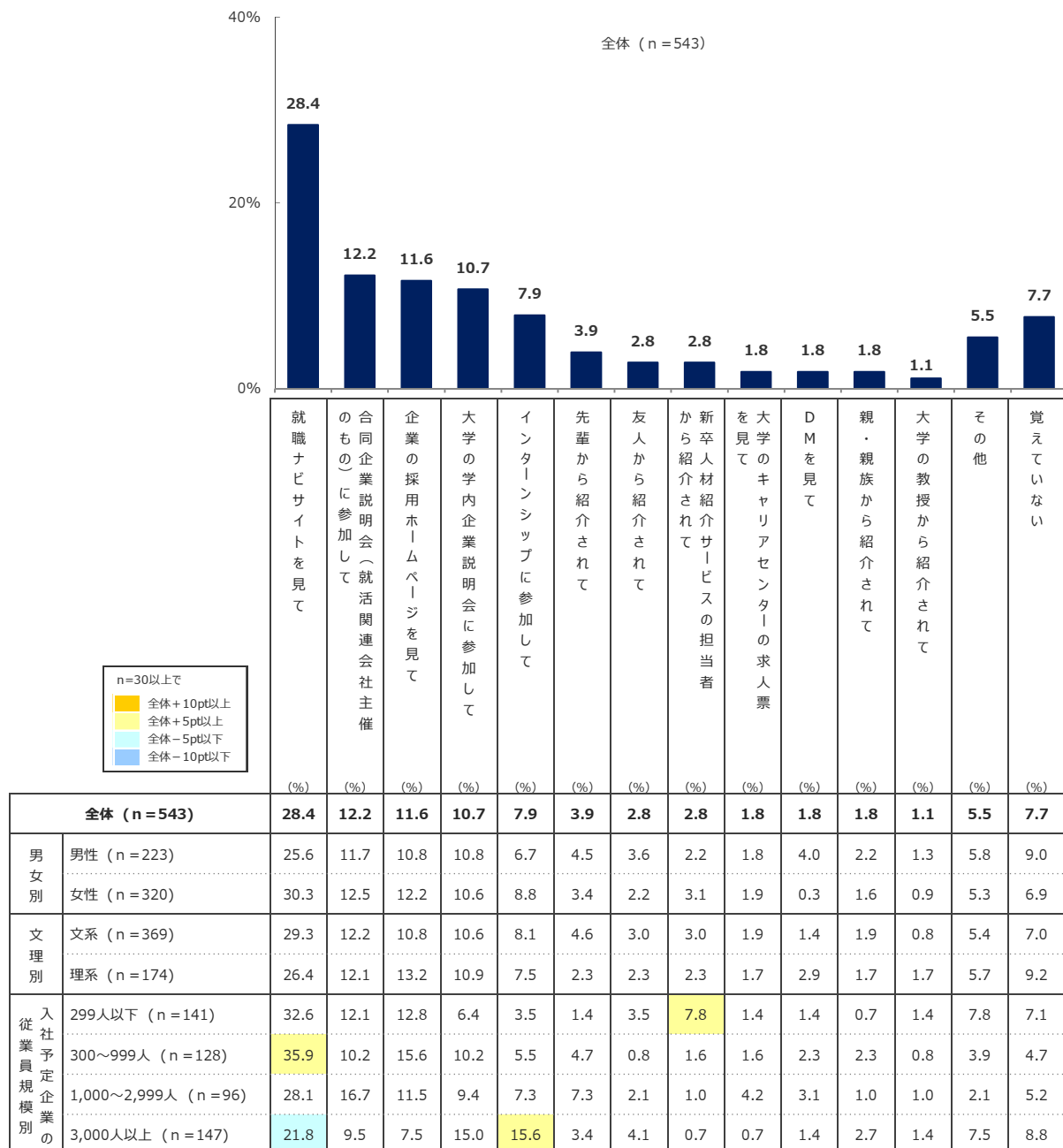
【図10.3】内定辞退の状況：文理別



入社予定企業の エントリー・応募に至ったきっかけ

「1 就職活動の進捗状況」において「内定獲得／就活終了段階」と回答した学生、または「10 内定辞退の状況」において「入社予定企業の内定のみを残し、他はすべて辞退した」と回答した学生に対し、入社予定企業のエントリー・応募に至った最初のきっかけを聞いた。最も回答が多かったのは「就職ナビサイトを見て」で28.4%だった。次いで、「合同企業説明会（就活関連会社主催のもの）に参加して」12.2%、「企業の採用ホームページを見て」11.6%、「大学の学内企業説明会に参加して」10.7%となっている。就職ナビサイトや企業ホームページなどのインターネットサイトや企業説明会が、学生と企業の主な出会いの場として機能しているようだ（図11.1）。

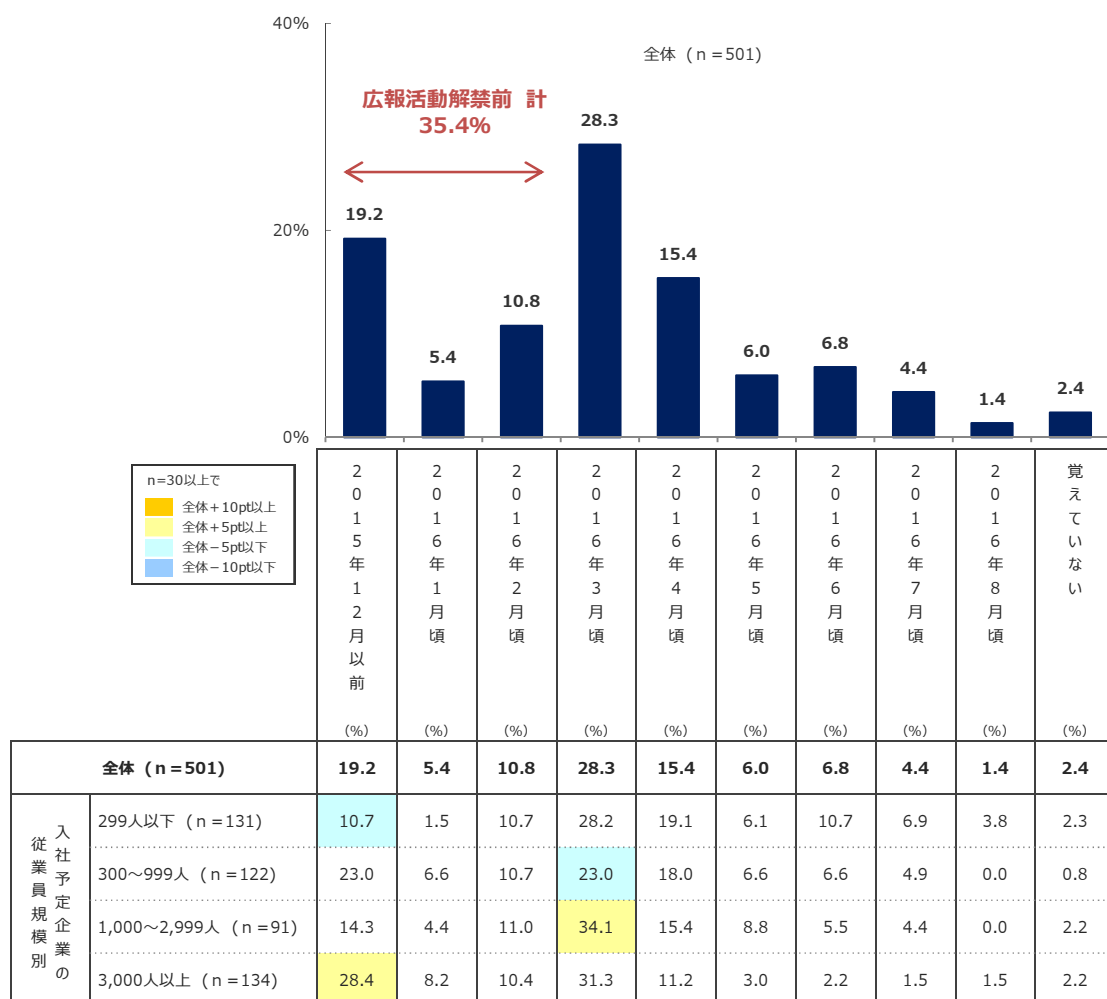
【図11.1】エントリー・応募に至った“最初の”きっかけ



さらに、入社予定企業のエントリー・応募に至った最初のきっかけを「覚えていない」と回答した学生を除いて、いつ頃に最初のきっかけがあったのかを聞いた。最も回答を集めたのは、「2016年3月頃」で28.3%だった。翌月の「2016年4月頃」の15.4%と合わせると、4割以上が広報活動解禁時期にエントリー・応募に至る最初のきっかけがあったようだ。一方、「2015年12月以前」を挙げた学生は19.2%で、広報活動解禁前の時期に既にエントリー・応募に至るきっかけがあった学生も35.4%に上った。

入社予定企業の従業員規模別に見ると、「3,000人以上」の企業に入社予定の学生のうち、その企業へのエントリー・応募に至った最初のきっかけが「2015年12月以前」にあった学生は、28.4%に上った。他の規模の企業に入社予定の学生よりも高い回答割合となっており、早期から情報収集や企業との接点を持っていたことがうかがえる（図11.2）。

【図11.2】エントリー・応募に至った“最初の”きっかけがあった時期



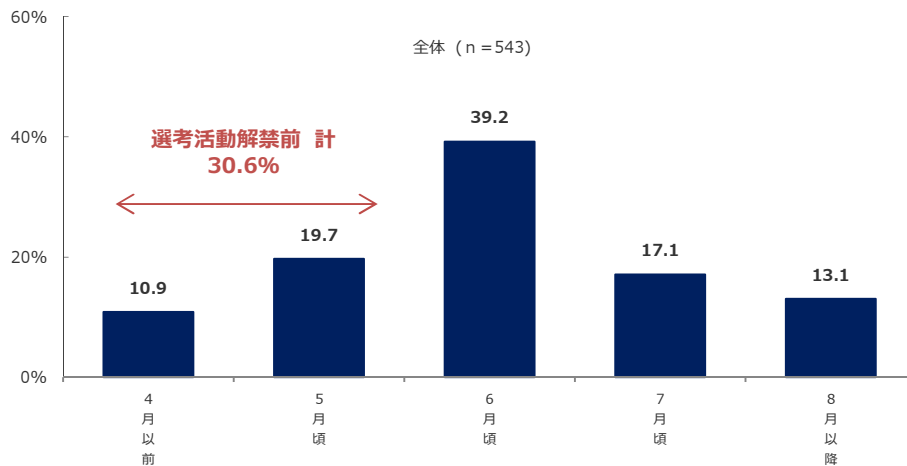
入社予定企業から 内定を獲得した時期

「 1 就職活動の進捗状況」において「内定獲得/就活終了段階」と回答した学生、または「 10 内定辞退の状況」において「入社予定企業の内定のみを残し、他はすべて辞退した」と回答した学生に対し、入社予定企業から内定を獲得した時期を聞いた。最多回答は「6月頃」で39.2%となったが、「4月以前」「5月頃」と回答した学生もそれぞれ10.9%、19.7%おり、合わせて30.6%が選考活動解禁前の時期に入社予定企業から内定を獲得していたようだ（図12.1）。

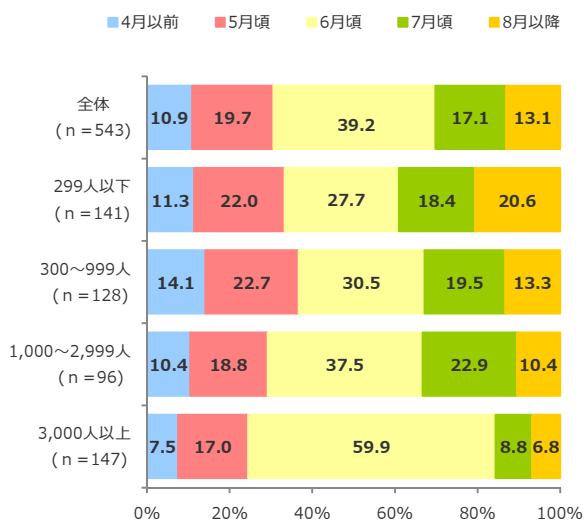
入社予定企業の従業員規模別に見ると、「3,000人以上」の企業に入社予定の学生は、「6月頃」にその企業から内定を獲得した割合が高く、59.9%に上った。大企業が、選考活動解禁時期を意識して内定出しをしていることがうかがえる結果となった（図12.2）。

また、「 11 入社予定企業のエントリー・応募に至ったきっかけ」から、入社予定企業へのエントリー・応募につながる最初のきっかけがあった時期と、内定を獲得した時期との関係を見た。入社予定企業からの内定獲得が「4月以前」だった学生の74.5%、「5月頃」だった学生の47.9%が、その最初のきっかけが「2月以前」だったと回答しており、広報活動解禁前からの接触が早期の内定につながっていることがうかがえる（表12）。

【図12.1】入社予定企業から内定を獲得した時期



【図12.2】入社予定企業から内定を獲得した時期：入社予定企業の従業員規模別



【表12】エントリー・応募に至るきっかけがあった時期：入社予定企業から内定を獲得した時期別 ※覚えていないとの回答を除く

		きっかけがあった時期					
		2月以前 (%)	3月頃 (%)	4月頃 (%)	5月頃 (%)	6月頃 (%)	7月以降 (%)
全体 (n=489)		36.2	29.0	15.7	6.1	7.0	5.9
内定入社を社獲得し企業時から別	4月以前 (n=51)	74.5	19.6	5.9	-	-	-
	5月頃 (n=94)	47.9	39.4	12.8	0.0	-	-
	6月頃 (n=192)	33.3	35.9	21.4	7.8	1.6	-
	7月頃 (n=85)	20.0	22.4	21.2	11.8	17.6	7.1
8月以降 (n=67)		19.4	10.4	4.5	7.5	23.9	34.3

注: n=30以上で
 全体+10pt以上 (黄色)
 全体+5pt以上 (緑)
 全体-5pt以下 (青)
 全体-10pt以下 (赤)

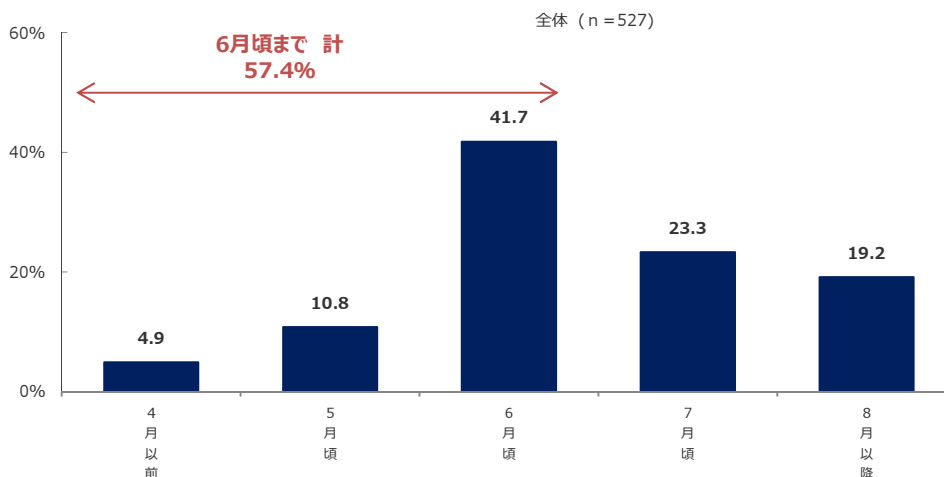
就職活動を終了した時期

「1 就職活動の進捗状況」において「内定獲得/就活終了段階」を回答した学生に対し、就職活動を終了した時期を聞いた。結果は、「6月頃」が最も多く41.7%となり、選考活動解禁後の1カ月間で、約4割の学生が活動を終了させた。さらに、「4月以前」「5月頃」の回答と合わせると、6月頃までに活動を終了させた学生は57.4%と、6割近くに達した(図13.1)。

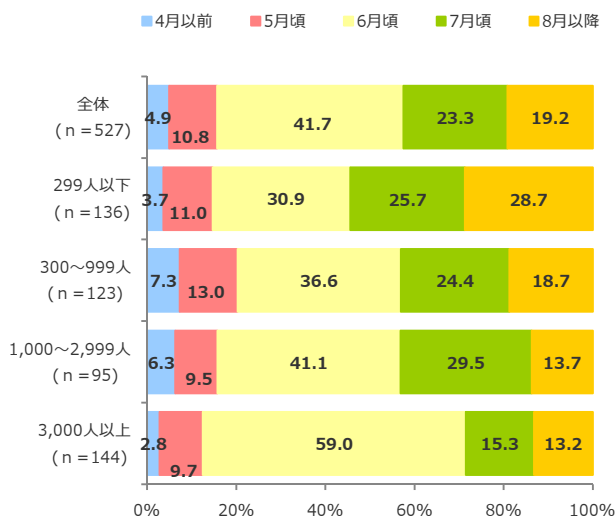
入社予定企業の従業員規模別に見ると、「6月頃」と回答した学生の割合は、入社予定企業の規模が大きくなるほど高くなる傾向があった。特に、「3,000人以上」の規模の企業に入社予定の学生では、「6月頃」に就職活動を終了した学生の割合が59.0%と約6割に上る。ここからも、大企業が選考活動解禁時期の6月を意識して内定出しをしていることが推測される(図13.2)。

さらに、入社予定企業から内定を獲得した時期と、就職活動を終了した時期との関係を見た。入社予定企業から内定を獲得した時期が「4月以前」「5月頃」の学生のうち、その月に就職活動を終了した学生はそれぞれ44.1%、48.1%となり、半数以上は入社予定企業からの内定獲得以降も、就職活動を続けていたことがうかがえる。一方、入社予定企業から内定を獲得した時期が「6月頃」「7月頃」の学生の約8割が、内定を獲得した当月に就職活動を終了させていた(表13)。

【図13.1】就職活動を終了した時期



【図13.2】就職活動を終了した時期
：入社予定企業の従業員規模別



【表13】就職活動を終了した時期
：入社予定企業から内定を獲得した時期別

		就職活動を終了した時期				
		4月以前 (%)	5月頃 (%)	6月頃 (%)	7月頃 (%)	8月以降 (%)
全体 (n=527)		4.9	10.8	41.7	23.3	19.2
内定を獲得した時期から	4月以前 (n=59)	44.1	11.9	25.4	10.2	8.5
	5月頃 (n=104)	-	48.1	39.4	11.5	1.0
	6月頃 (n=208)	-	-	78.8	17.3	3.8
	7月頃 (n=89)	-	-	-	77.5	22.5
	8月以降 (n=67)	-	-	-	-	100.0

入社予定企業に対する満足度

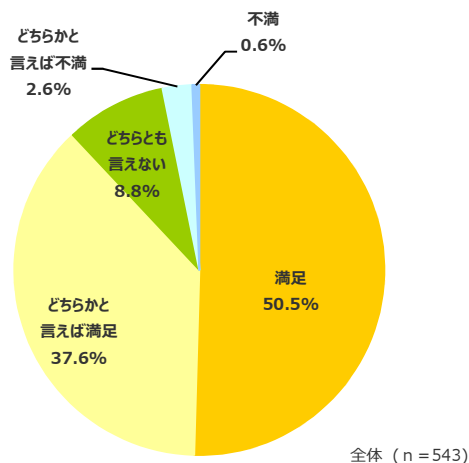
「1 就職活動の進捗状況」において「内定獲得/就活終了段階」と回答した学生、または「10 内定辞退の状況」において「入社予定企業の内定のみを残し、他はすべて辞退した」と回答した学生に対し、入社予定企業に対する満足度を聞いた。「満足」50.5%、「どちらかと言えば満足」37.6%となり、学生の満足度（「満足」と「どちらかと言えば満足」の計/以下同）は88.1%と高い（図14.1）。

入社予定企業の従業員規模別に見ると、「3,000人以上」の企業に入社予定の学生は、「満足」と回答した学生の割合が63.9%と高くなっている。一方、999人以下の企業に入社予定の学生では、1,000人以上の企業に入社予定の学生に比べ「どちらとも言えない」の回答割合が高くなっており、入社予定企業の従業員規模が大きい方が、満足度が高くなる傾向があるようだ（図14.2）。

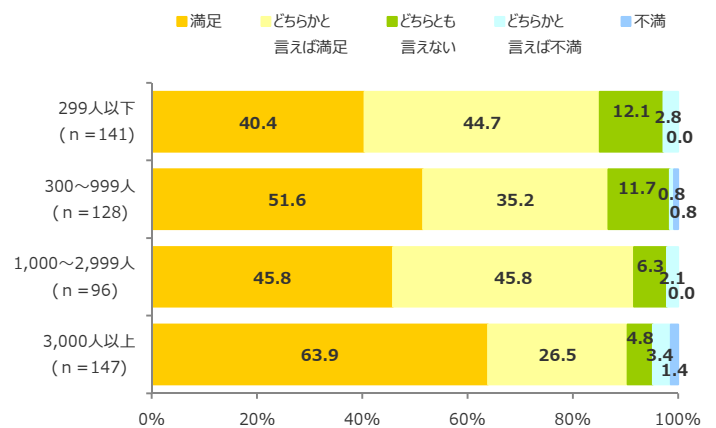
また、入社予定企業の“業界”や“職種”について、就職活動開始当初から志望していたものか聞いている。“業界”については70.9%が、“職種”については77.7%の学生が就職活動開始当初から志望していたものだと回答した（図14.3）。

入社予定企業の満足度との関係を見ると、“業界”“職種”ともに、就職活動開始当初から志望していたかどうかに関わらず、おおむね同程度の満足度となった。しかし、就職活動開始当初から志望していた“業界”または“職種”であった学生の方が、「満足」の回答割合が高く、より質の高い満足感につながっているようだ（図14.4）。

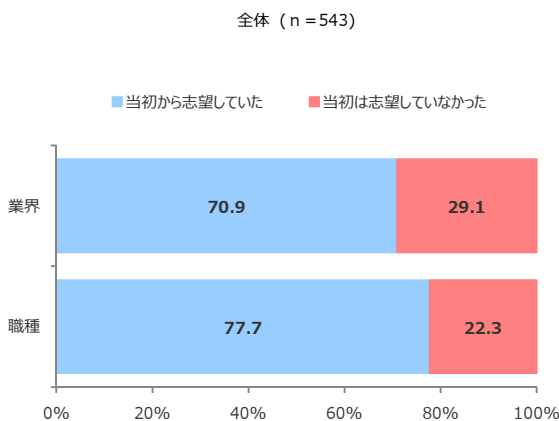
【図14.1】入社予定企業の満足度



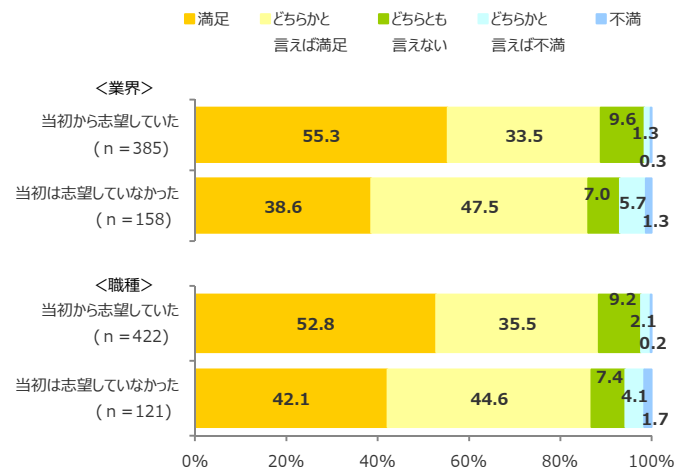
【図14.2】入社予定企業の満足度：入社予定企業の従業員規模別



【図14.3】入社予定企業の“業界”“職種”は当初から志望していたものか



【図14.4】入社予定企業の満足度：入社予定企業の“業界”“職種”は当初から志望していたものか別

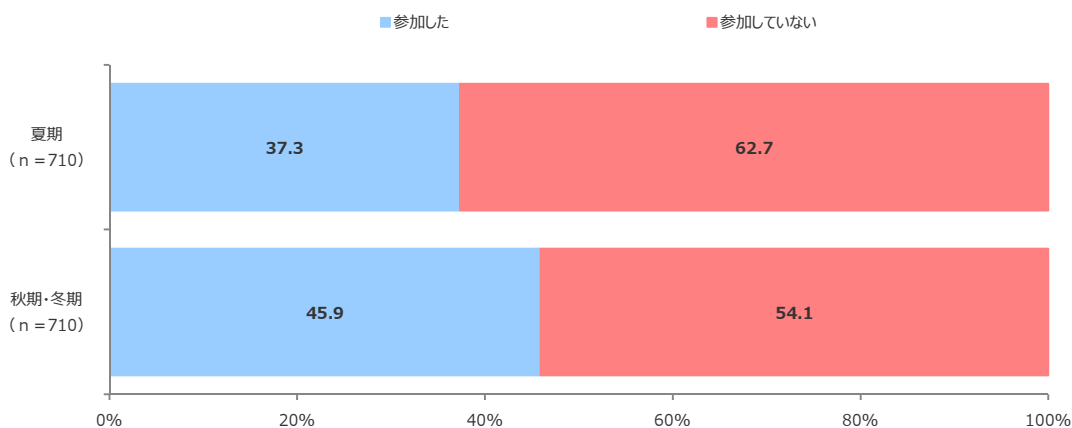


インターンシップ参加状況

学生に、昨年（2015年）度の夏期または秋期・冬期のインターンシップへの参加状況を聞いた。夏期インターンシップに「参加した」学生は37.3%、秋期・冬期インターンシップに「参加した」学生は45.9%だった。秋期・冬期インターンシップは、約半数の学生に参加経験があり、夏期よりも参加率が高い（図15）。

内定獲得状況別に見ると、開催時期にかかわらず、「内定あり」の学生の方が「内定なし」の学生よりもインターンシップへの参加率が高い。さらに、内定獲得社数が多い学生ほど、インターンシップへの参加経験がある傾向が見られた。内定獲得社数が「3社以上」の学生では、47.0%が夏期インターンシップに、55.5%が秋期・冬期インターンシップに「参加した」と回答している（表15.1、表15.2）。

【図15】インターンシップの参加状況



【表15.1】インターンシップ参加状況：内定獲得状況別
／夏期インターンシップ

		参加した (%)	参加していない (%)
全体 (n=710)		37.3	62.7
内定獲得状況別	内定なし (n=97)	28.9	71.1
	内定あり (n=613)	38.7	61.3
	※内定あり 獲得社数別		
	1社 (n=240)	30.4	69.6
2社 (n=173)	40.5	59.5	
3社以上 (n=200)	47.0	53.0	

【表15.2】インターンシップ参加状況：内定獲得状況別
／秋期・冬期インターンシップ

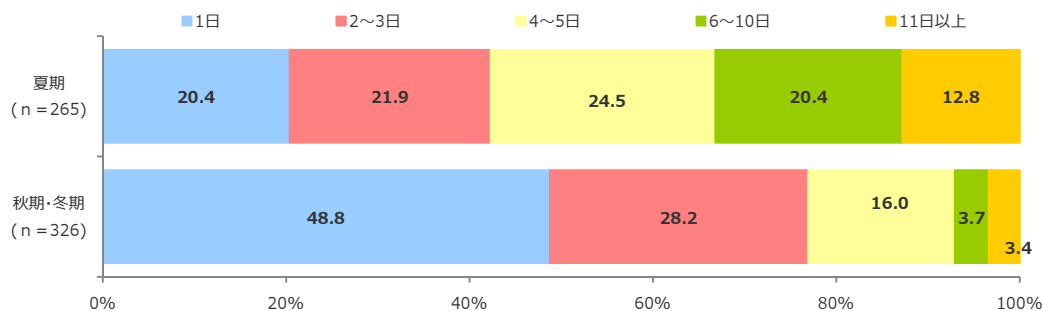
		参加した (%)	参加していない (%)
全体 (n=710)		45.9	54.1
内定獲得状況別	内定なし (n=97)	22.7	77.3
	内定あり (n=613)	49.6	50.4
	※内定あり 獲得社数別		
	1社 (n=240)	45.0	55.0
2社 (n=173)	49.1	50.9	
3社以上 (n=200)	55.5	44.5	

インターンシップの日数・プログラム内容

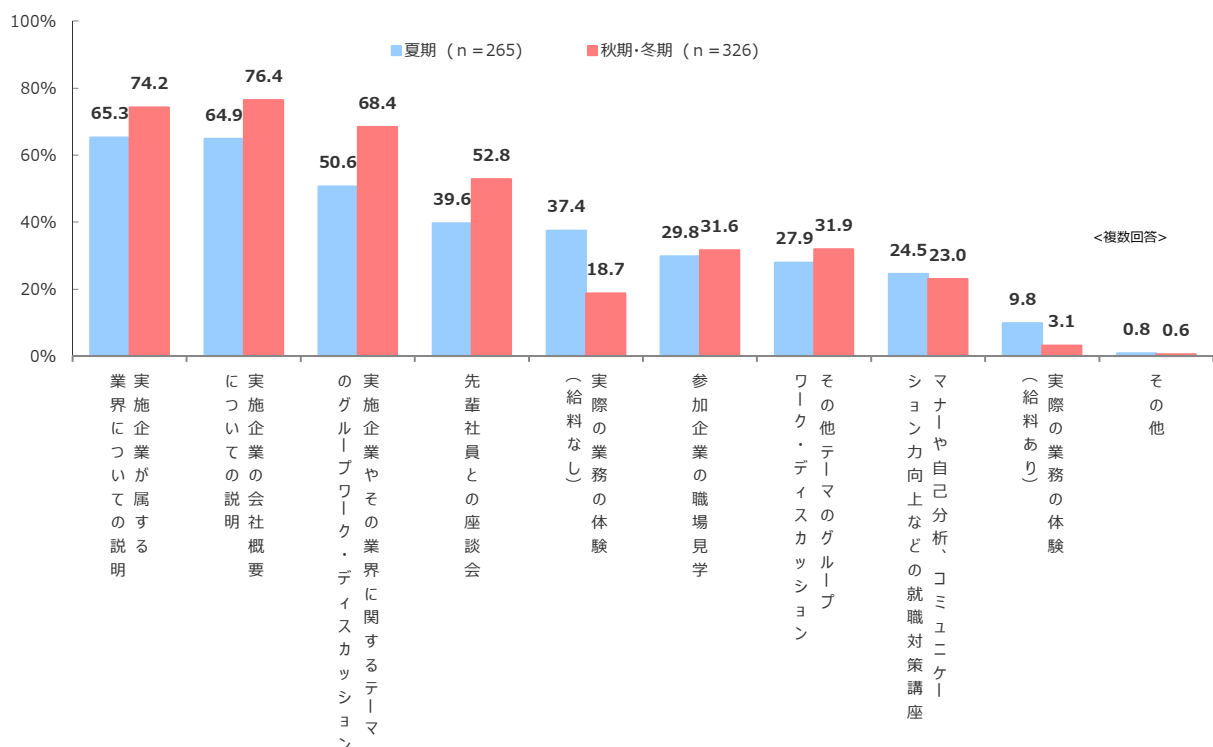
「15 インターンシップ参加状況」において、夏期または秋期・冬期のインターンシップに「参加した」と回答した学生に、それぞれのプログラム日数を聞いた。夏期インターンシップでは、「4～5日」が24.5%で最多となった。「1日」という回答は20.4%に留まり、約8割の学生が2日以上にわたるプログラムに参加している。一方、秋期・冬期インターンシップにおいては、「1日」が48.8%で約半数となった。次点も「2～3日」で28.2%となり、夏期インターンシップよりも短期間の実施が多いようだ（図16.1）。

さらに、参加したインターンシップの内容を聞くと、開催時期により順位の変動はあるものの、「実施企業が属する業界についての説明」「実施企業の会社概要についての説明」「実施企業やその業界に関するテーマのグループワーク・ディスカッション」が上位3項目となった。総じて、秋期・冬期インターンシップの方が回答割合が高い。また、夏期インターンシップでは、「実際の業務の体験（給料なし）」が37.4%で5位に挙がっているのに対し、秋期・冬期インターンシップでは18.7%で8位となっていた。インターンシップの開催時期によって内容が異なっており、企業の実施目的が異なっていることがうかがえる（図16.2）。

【図16.1】インターンシップのプログラム日数



【図16.2】インターンシップのプログラム内容



さらに、各インターンシップのプログラム内容と日数の関係を見た。まず、夏期インターンシップでは、プログラム日数が短いほど「実施企業が属する業界についての説明」「実施企業の会社概要についての説明」「実施企業やその業界に関するテーマのグループワーク・ディスカッション」の回答割合が高くなる傾向がある。反面、プログラム日数が長くなるほど「実際の業務の体験（給料なし）」「参加企業の職場見学」「実際の業務の体験（給料あり）」の回答割合が高くなる傾向があった。短期間の場合は座学中心、長期間の場合は職場や実際の業務に触れる機会が多くもたれているようだ（表16.1）。

秋期・冬期インターンシップも、夏期と同様に、1日開催の場合は会社や業界の説明が、2日以上で開催では職場や業務に触れる機会が多くなっている（表16.2）。

【表16.1】インターンシップのプログラム内容：夏期インターンシップの日数別

<複数回答>

		実施企業が属する業界についての説明	実施企業の会社概要についての説明	実施企業やその業界に関するテーマのグループワーク・ディスカッション	先輩社員との座談会	実際の業務の体験（給料なし）	参加企業の職場見学	その他テーマのグループワーク・ディスカッション	就職対策講座	マネーや自己分析、コミュニケーション力向上などの	実際の業務の体験（給料あり）	その他
		(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
全体 (n=265)		65.3	64.9	50.6	39.6	37.4	29.8	27.9	24.5	9.8	0.8	
プログラム日数別	1日 (n=54)	77.8	77.8	66.7	35.2	7.4	20.4	25.9	24.1	3.7	0.0	
	2~3日 (n=58)	69.0	67.2	58.6	32.8	20.7	22.4	31.0	22.4	5.2	0.0	
	4~5日 (n=65)	72.3	69.2	52.3	46.2	44.6	35.4	32.3	33.8	7.7	1.5	
	6~10日 (n=54)	50.0	48.1	33.3	44.4	66.7	37.0	29.6	18.5	5.6	0.0	
	11日以上 (n=34)	50.0	58.8	35.3	38.2	52.9	35.3	14.7	20.6	38.2	2.9	

【表16.2】インターンシップのプログラム内容：秋期・冬期インターンシップの日数別

<複数回答>

		実施企業が属する業界についての説明	実施企業の会社概要についての説明	実施企業やその業界に関するテーマのグループワーク・ディスカッション	先輩社員との座談会	実際の業務の体験（給料なし）	参加企業の職場見学	その他テーマのグループワーク・ディスカッション	就職対策講座	マネーや自己分析、コミュニケーション力向上などの	実際の業務の体験（給料あり）	その他
		(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
全体 (n=326)		74.2	76.4	68.4	52.8	18.7	31.6	31.9	23.0	3.1	0.6	
プログラム日数別	1日 (n=159)	83.0	82.4	67.3	52.2	8.8	26.4	30.2	23.3	0.6	0.0	
	2~3日 (n=46)	69.6	78.3	69.6	60.9	30.4	45.7	37.0	21.7	2.2	2.2	
	4日以上 (n=75)	68.0	73.3	74.7	53.3	28.0	37.3	33.3	22.7	6.7	0.0	

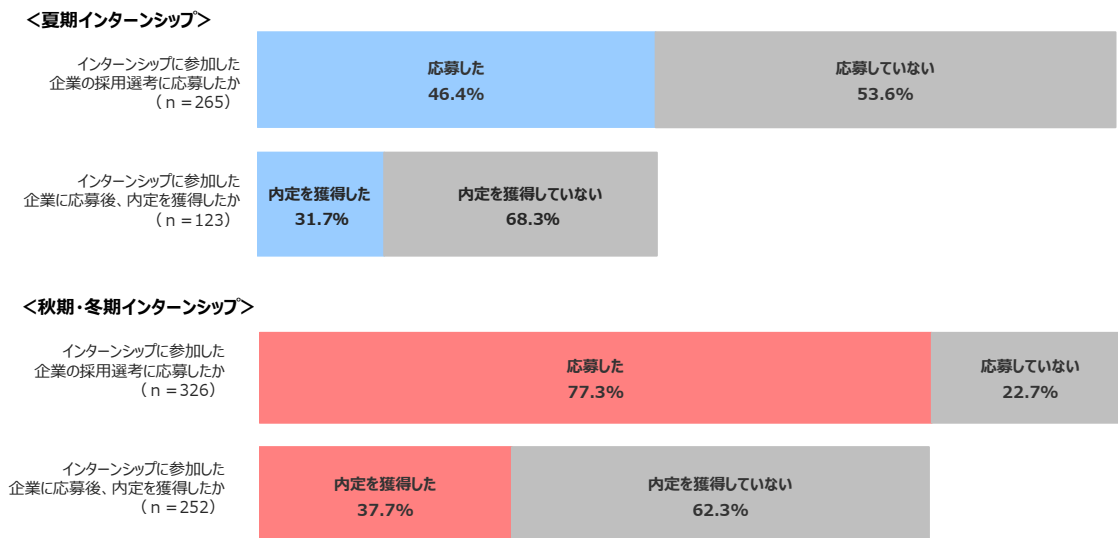
インターンシップ参加企業への 応募・内定状況

「15 インターンシップ参加状況」で、夏期または秋期・冬期のインターンシップに参加した学生に、その企業の新卒採用選考への応募状況を聞いた。インターンシップに参加した学生のうち、その企業の新卒採用選考に「応募した」学生は、夏期インターンシップでは46.4%、秋期・冬期インターンシップでは77.3%に上った。秋期・冬期インターンシップに参加した学生の方が、新卒採用選考への応募率が高くなっている。

さらに、インターンシップ参加企業の新卒採用選考に応募した学生に、その企業から内定を獲得したか聞くと、夏期インターンシップに参加した企業から「内定を獲得した」学生が31.7%、秋期・冬期インターンシップに参加した企業から「内定を獲得した」学生は37.7%となった。応募率は秋期・冬期インターンシップの方が高いものの、応募者のうち内定に至る割合は、夏期と秋期・冬期で大きな差は見られなかった（図17.1）。

これらを、本アンケートに回答した全学生を母数に再集計した。全学生のうち、夏期インターンシップへの参加率は37.3%、応募率は17.3%となっている。夏期インターンシップ参加企業から内定を獲得した学生は、全体で見ると5.5%だった。秋期・冬期インターンシップでは、夏期よりも全体的に数値が高く、参加率45.9%、応募率35.5%となっている。夏期インターンシップよりも、参加率と応募率の差が少なく、インターンシップの参加を受けて応募行動に移す学生が多いことがうかがえる。内定を獲得した学生も13.4%と、夏期インターンシップより高い（図17.2）。

【図17.1】インターンシップ参加企業への応募、内定状況



【図17.2】インターンシップへの参加、応募、内定状況 ※全学生を母数に集計

